

## 定禅寺通パブリックミーティング vol.1 -定禅寺通エリアで仕掛ける-

定禅寺通活性化検討会は、定禅寺通に関係する町内会や街づくり団体、定禅寺通の沿道地権者のみなさまなどにより設立され、定禅寺通エリアの将来像、エリアの活性化やさらなる魅力向上につながる取り組みなどの検討を行っています。

検討会として初めての市民公開イベントとなる「定禅寺通パブリックミーティング vol.1 -定禅寺通エリアで仕掛ける-」が、令和元年6月9日に開催され、139名のご来場をいただきました。

前半では、主催者あいさつ、市長あいさつに続けて、検討会のこれまでの取り組みを市民のみなさまに報告し、株式会社グランドレベル代表取締役社長の田中元子氏より、「1階づくりはまちづくり」と題した基調講演をいただきました。



### 主催者あいさつ 定禅寺通活性化検討会 会長 田村 忠嗣



本日は多数のみなさまにお集まりいただき、誠にありがとうございます。

昨年10月に設立された検討会も、現在では108名となり、おかげさまで大きく発展してまいりました。新旧の担い手と一緒に、この定禅寺通エリアをさらに素晴らしいものにしていきたいと考えております。また、先週から立町で社会実験に取り組んでおまして、おいしい空気を吸いながら、おいしい飲み物・食べ物で楽しんでいただければと思います。

定禅寺通は、広く市民のみなさまに親しまれる仙台市の財産でもあります。検討会の中だけに留まらず、市民のみなさまとも活発に意見を交わしながら、ともに一歩ずつ、進んでまいりたいと思いますので、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 市長あいさつ 仙台市長 郡 和子

多くのみなさまにお集まりいただき、定禅寺通エリアのまちづくりに対する、みなさまのエネルギーを大変心強く感じております。本日は、基調講演をいただく田中元子さん、そして、検討会でご活躍されている方々の貴重なお話が伺える機会ですので、お集まりのみなさまはもとより、市民協働のまちづくりを進める仙台市としても、大きな刺激をいただけるのではないかと期待しております。

仙台市は引き続き、仙台商工会議所とともに事務局として検討会をサポートしてまいります。みなさまのご意見やご議論により、定禅寺通エリアがさらに魅力的なものとなり、都心に人の流れ・回遊性が生まれるきっかけとなりますよう、ご祈念申し上げます。



### 報告「平成30年度の取り組み」 定禅寺通活性化検討会 コーディネーター 榎原 進



定禅寺通エリアのまちづくりの目的としては、定禅寺通エリアが「杜の都」のシンボルであり続け、将来にわたって人々を惹きつけ、仙台都心の回遊を促し、都市ブランドの向上に貢献するということになろうかと思っております。昨年度はこの目的のもと、様々な立場の会員が一堂に会したキックオフミーティングと、その後4回のワーキンググループを開催し、どんな定禅寺通を目指すのかを議論してまいりました。これらの議論を通じ、「杜の都の原体験を生み出す街」、「上質な空間・心地よい時間を過ごせる街」、「新しい都市文化とビジネスが相乗効果を生む街」という3つのビジョンを掲げております。

これらのビジョンに基づき、エリアブランディングやグリーンマネジメント、街路づくりなど、7つの検討項目について、ディスカッションを中心としたテーマ型ワーキンググループと、議論だけでなく街に出て、現場で実践をするプロジェクト型ワーキンググループとで、今後の検討を進めていきたいと考えております。みなさまのご意見を随時反映してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 基調講演「1階づくりはまちづくり」 株式会社グランドレベル 代表取締役社長 田中 元子 氏



私はグランドレベルという会社を2016年からやっているのですが、「1階づくりはまちづくり」という言葉を合い言葉に活動しています。我々は自然と目に入る1階と地面とがクロスするあたりの空間を見て、まちの印象を感じています。このグランドレベルと呼ばれる1階がある部分は、プライベートとパブリックの交差点となる特殊な空間で、「このエリアに住んで幸せだな」と感じられるかどうかの鍵を握っていると考えています。

「1階づくりはまちづくり」と言いましたが、まちづくりに留まらず、社会づくりや人づくりでもあります。ポイントになるのは、人口が多くても必ずしも豊かではないということです。

デンマークのオーフスというまちを紹介します。人口32万人、人口密度683人/km<sup>2</sup>と仙台より小さいですが、「まちの中に出てまちを楽しむこと」を意識してつくられた、デザインされたまちです。至る所に座れるようになっていたり、川が流れているのですが、この水面をみんなで見つめて過ごしたりできるようになっています。川自体は大きなものではありませんが、人々がこの場所を楽しむことができるように、人々のまちの中での居場所になるようにデザインされているのです。

居場所づくりにどんな効果があるか、ロンドン交通局が最近実験し発表しています。車が中心の街よりも歩行者優先の街のほうが、地元での買物の率が40%も高まり、人々が「時間を過ごしたい」と思える環境づくりが、ビジネスの業績向上と関係があると明らかになりました。さらに、ロンドン南東部のプロムリー地区で、まちの1階にお店をつくったりベンチを置いたり、まちの1階・地面で過ごせるような環境づくりを実際にやってみたところ、歩行者数は93%も増加。まちで過ごす時間が何と216%も高まり、その影響で売上や賃料も上昇、空室率は17%も減ったという結果が出ています。



デンマークのコペンハーゲン市では、市の最新の観光戦略として「観光の終焉」という言葉を掲げています。誰が来ても同じものを推奨する観光活動をやめて、その国の日常生活を見せることが観光活動だと腹をくくったものです。自慢できる日常生活をつくること、それは市民生活の豊かさを高めることと同じです。

日本でも、様々な都合で「1階に人が関われない」まちにしてしまう状況が見られます。一方、1階で誰かが食事したり様々な活動したりという、「人の体温が感じられる」生きたまちと、どちらが良いでしょうか。日本の人口は絶対に減ります。そんな中、「こんな暮らしが実現できたら私も住みたい」というように、まちが選択淘汰されていくということは、同じ市の中でも、エリア、エリアの中で起こっていくことだと思います。

あるとき、「築55年の空きビルの1階でどんな事業をやったらいいですか？」と相談を受けました。そこは工場や倉庫が急激に高層マンションに建て替わり、人口密度が高まる一方、歩く人が少なくなってしまったエリアで、



せめてどんな人が暮らしているのか、その顔が見える場所があったほうがいいという話から、1階づくりがスタートしました。私は、洗濯機やミシンなどを置いたみんなで使える家事室「喫茶ランドリー」を提案してみました。

すると、イベントやパーティなどに使いたいと、近くのお母さんやおばあさんが集まるようになり、私はただ許可するだけではなく、全力で使うことを応援しました。彼女たちは今、「私、こんなことができるようになった、こんなことができた」と言って、自分で何かを実践するということを叶えています。

「イベントなんかやったことがない」と言うミシンを使うママの後で、男性陣が仕事の打合せをして、向こうで親子が遊ぶ。様々な属性の人が様々な活動をする。それを互いに許容しながら1つの空間に居合わせる。ここでこうしたら良かれと思って、みんながやってくるということ、それを実現させることに意義があると思っています。これを私は「補助線のデザイン」と呼んでいます。

サービスの機能という「ソフト」と、空間や建築という「ハード」とが、繋がるようにコミュニケーションしたり、2つを繋げるような仕組みをつくったりしないと、ソフトとハードという関係は思い通りには回りません。「市民」と呼ばれる人々はみんな、赤ん坊ではなく、色々な経験をした凄い人たちです。人々の能動性ややりたいこと、考えていることがまちに表出していったら、どんなに素敵なことか。私はそのための補助線をつくりたいと考えています。

## パネルディスカッション「定禅寺通エリアで仕掛ける」

パブリックミーティングの後半では、検討会の会員である有限会社とびばいさ甘座の渡辺靖水氏、同じく会員の三菱地所株式会社東北支店の森富士夫氏、基調講演をいただいた田中元子氏、モデレーターとして東北大学大学院工学研究科の姥浦道生氏にご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。



### 有限会社とびばいさ甘座 工場長 渡辺 靖水 氏

生まれも育ちも仕事も子育ても全て定禅寺通で過ごしてきた1人です。長年、商売をこんな素敵な通りでさせていただいて、ここを通る人たちへの恩返しや住んでいる人たちの日常をもっと豊かにしたいと思い、検討会の活動や社会実験に取り組んでいます。

定禅寺通にテーブルと椅子を置く社会実験は、どういった人達がケヤキの下で良い時間を過ごしているのか、まずはそれを知りたいと思い始めたもので、「待っていた」「良かった」という声をいただきました。隣近所の参加者同士が打ち解けるきっかけにもなっています。

定禅寺通は長いので、それぞれのエリア・ブロックにそれぞれの物語や商売の仕方があると思います。そこでの話し合いから、身近なところから、様々な取り組みが生まれることを期待しています。

### 三菱地所株式会社東北支店 ユニットリーダー 森 富士夫 氏

仙台に来て4年目、定禅寺通エリアの歴史やこれまでの流れを良く知らない人間ですが、どこかでそれらを感じて生活していますし、外から来た人間だからこそ見えてくるものもあると考え、検討会に参加させていただいています。

不動産は公共財でもある一方、経済合理性を追求しなければならないものでもあります。しかし、難しいことではありますが、不動産もまちの一員なので、個性的なテナントの誘致とか、まちの豊かな生活の一端を担えるようなことにチャレンジしてみたいと、個人的には思います。また、これまでの車を中心としたまちづくりでは、できることは限られてきます。思い切って人を中心にした街づくりに挑戦しても良いのではないかと考えています。そして、まちには公共施設・空間も民間不動産もありますので、公民でまちづくりやまちのあり方を考え、みんなでまちを利用し、楽しく暮らしていければいいのかなと思います。



### 株式会社グランドレベル 代表取締役社長 田中 元子 氏

まちは常に果実であり、誰かが植えてくれた、誰かがご商売して稼いでくれた、その様々な利益を甘受するというのがまちに生きるということなので、私たちが将来に向け、豊かなまちだと言えるように、植樹し、種をまいていかなければならないと思います。

まちづくりは、個々のやる気や好奇心などに頼るのではなく、官民連携して戦略的にこのエリアをじわじわといふ状態にしていくのだという戦略が重要です。

日常の豊かさと経済合理性を両立させる上で、「金儲けに走るな！」などということは全く言いません。「稼ぎ方」だと思います。明日稼ぎたいならば大手の事業者を誘致すればよくて、でも明日ではなくて10年20年30年で考えるならば、一番良い稼ぎ方は何かを考えましょうということなのです。

### 東北大学大学院工学研究科 准教授 姥浦 道生 氏

まず基調講演で田中さんから、豊かな日常を作り出すための居場所づくり、グランドレベルに居心地のよい空間を、多様に繋げながら作っていくことが重要というお話をいただきました。その中で、まさにその日常をつくっていらっしゃる渡辺さんにお話をいただき、森さんからは少し俯瞰的に、また外の視点を踏まえながら、エリア全体でのマネジメントが必要なのではないかというお話をいただきました。

実に多様性に富んでいる定禅寺通で、多様性を踏まえながらどのように仕掛けていくのかというと、立町での社会実験のような取り組みを一歩ずつ進めていく、ということなのかという感想を持っております。「そのうちできたらいいね」という話が多い中、既にできて、でき始めているものを見ながらお話することは、非常にわくわくするというか、楽しいものでした。



## 来場者からのご意見など（一部抜粋）

パブリックミーティングでは、定禅寺通活性化に対するご意見やご質問を記載していただくシートを来場者にお配りし、ご記入いただきました。また、アンケートにも自由記述欄を設け、ご意見などをいただきました。

### ご意見・ご質問シートから・・・

- 定禅寺通のイメージが、ずっと住んでいる人と、外からきた人で違うことを同じテーブルで話してみても感じた。
- まちのひとが一言（一行）で言えるエリアのビジョンがあればいい。
- 定禅寺のイベントは地下鉄駅等に掲示されているが、認知しづらいため、PRの方法に工夫がほしい。
- 定禅寺通は魅力的な空間なので、民間不動産と同様、賃料を払って民間が自由に事業を行える“活きた空間”とすべき。補助金を市が払う必要はないが、その分民間に開放すべき。
- 何をしても許される、うつわの大きい場であってほしい。というか、そうあるべき。お互いを批判せず、つくりたい場（目に見える見えない関わらず）は自分でつくろう。いろんな場がたくさんあってこそ、自分に合う場が見つけられ、人が幸せになると思います。
- 朝の時間を活用して、定禅寺通の飲食店が中央緑道で朝ご飯を提供するイベントがあったら面白そうだなと思う。（「ティファニーで朝食を」ならぬ「定禅寺で朝食を」みたいな…）
- 1階づくりのためには、歩行者に優しくする必要あり。子供・人・自転車・車の動線デザインが重要になる。今日も子供と定禅寺通を歩いたが、自転車が危ない。
- 交通との兼ね合い。車（自転車）の通行量が多いため、騒音や排気ガスも多い。この空間にどう公共性をつくるか？（どの点に注意するか？）※交通をないがしろにすることはできない



### 来場者アンケートから・・・

- まちづくり、また行政について、まずは、自分がどんなまちであってほしいかを考える、見極めるところから始めてみたい。【～20歳代・女性】
- まちづくりはトライ＆エラーの繰り返しで磨かれていくものだと思う。出来ることからどんどん実験して進めて欲しい。【40歳代・女性】
- “定禅寺通”そのものを変化させる議論（車線と歩道、机といすなど）と、“定禅寺の路地”との連携が大切では？日常の話（ミクロな議論）、仕組みや制度の話（マクロな話）を分けて意見交換をしてみてもいい。【30歳代・男性】
- ディスカッションはもっと具体的なテーマでパネリストの主体性に任せた方が良かった。【～20歳代・男性】
- 「誰にでもふさわしい居場所」といわゆる「経済合理性」は一定の規模以上だと相反する課題だと思うが、定禅寺通、特に小規模な商売は「みんなの居場所づくりが経済合理性に繋がる」という意味でポテンシャルを感じる。人口が減って縮んでいくパイを奪い合う「競争」ではなく、色んな人がうまく「共生」できる日常があるとよい。【40歳代・男性】
- 活性化の第一歩として歩道は安心安全に歩けなければならない。自転車での通行は非常に危険。時間を制限し、例えば朝9時以降夕方5時までは『自転車は降りて引いて定禅寺』の時間帯にするといい。【70歳代～・男性】
- 道路利活用について、本来影響を受けるのは、地権者・事業者である受益者市民であり、行政と受益者市民たちでエリアに投資をすべき。さらに、その利活用について道路占有と使用許可は自治体の権限で運用すべき。もっと言えば、受益者市民による判断で、活用を決めるべき。（権限を受益者市民グループに）【30歳代・男性】
- ケヤキ並木について、今に至る経緯を知らせれば良かったと思う。歴史を踏まえて今後の方向性を見出した良かったのではないかな。【50歳代・女性】
- ケヤキの根元に生ゴミがあり、きれいなゴミ置場をつくれればカラスに散らかされず済むと思う。【50歳代・女性】

◆◆◆お問い合わせ◆◆◆

定禅寺通活性化検討会 事務局（仙台市まちづくり政策局 定禅寺通活性化室）

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

電話：022-214-1255（直通） FAX：022-214-8037 Mail：jozenji\_dori\_k@city.sendai.jp